陽林会第 5 回研修の旅

身延山久遠寺と家康 400 年祭　　レポート　岩水龍峰　　2015.07.10

平成 27 年年 7 月 6 日（月）梅雨空の中、林陽寺駐車場を 7 時 30 分予定通り出発、途中コンビニによりお茶を積み、岐阜駅にて名古屋からのメンバーと合流し、一路東名、三ヶ日から新東名へ、身延へと向かう。

参加者は 22 名。先達の部田氏より車中にて日程説明を受ける。浜松 SA にて名物メロンパンを買い、仲間で分け合う。ちょうどお昼頃新静岡 IC を出て、昼食地丸子宿へ、江戸時代から続く名物料理「とろろ汁」を一松園の座敷でいただく、江戸末の建物とのことで柱が黒光り、展示されている御駕籠に興味津々。麦飯にとろろをかけていただくのであるがあまり噛むこともなく流し込むようである。美味しかった。

身延山久遠寺

雨の中、最初の見学地身延山へ。車中にての学習は、萬屋錦之介主演の映画『日蓮』1979（S54）年を鑑賞。日蓮の生涯を描いた映画であり、多くの法難を受けた様子がよく理解できた。鎌倉時代、疫病や天災が相次ぐ末法の世、「法華経」をもってすべての人々を救おうとした日蓮聖人は、三度にわたり幕府に諫言（かんげん）を行いましたが、いずれも受け入れられることはありませんでした。当時、身延山は甲斐の国波木井（はきい）郷を治める地頭の南部実長（さねなが）氏の領地でした。日蓮聖人は信者であった実長の招きにより、1274（文永 11）年5 月 17 日、身延山に入山し、同年6 月 17 日より鷹取山（たかとりやま）のふもとの西谷に構えた草庵を住処としました。このことにより、1274 年5 月 17 日を日蓮聖人身延入山の日、同年6 月 17 日を身延山開闢（かいびゃく）の日としています。日蓮聖人は、これ以来足かけ9 年の永きにわたり法華経の読誦（どくじゅ）と門弟たちの教導に終始し、1281（弘安4 ）年 11 月 24 日には旧庵を廃して本格的な堂宇を建築し、自ら「身延山久遠寺」と命名されました。

翌 1282（弘安5 ）年9 月8 日、日蓮聖人は病身を養うためと、両親の墓参のためにひとまず山を下り、常陸の国（現在の茨城県）に向かいましたが、同年 10 月 13 日、その途上の武蔵の国池上（現在の東京都大田区）にてその 61 年の生涯を閉じられました。そして、「いずくにて死に候とも墓をば身延の沢にせさせ候べく候」という日蓮聖人のご遺言のとおり、そのご遺骨は身延山に奉ぜられ、心霊とともに祀られました。

我々は、本堂参拝の前に日蓮聖人が風雨をいとわずお登りになり、ご両親を偲んだといわれる身延山(海抜 1153m)、その山頂にある思親閣へロープエイで、霧の中であったが、仁王尊像を祀る仁王門をくぐってお参り。下山後、報恩閣へ、立教開宗 750 年慶讃事業のひとつとして建築され、受付と信徒休息所にて、案内の方と合流し、本堂へ 1985（S60）年、日蓮聖人 700 遠忌の主要記念事

業として再建された、間口 32 メートル、奥行 51 メートル。一度に 2,500 人の法要を奉行と説明を受け、本堂階段にて、新しく再建された五重塔（2009（H21）年5 月、1875（M8 ）年の大火による焼失より 134 年ぶりによみがえった宝塔。木材は全て国産を使用し、設計から工法にいたるまで 400 年前に建てられた元和の塔を復元・再建された。）や日蓮宗全体のお話しを 1 時間程聞く。その後、雨の中を、祖廟塔を拝頭。拝殿の正面に厳然と聳立するのが、聖人の「墓をば身延」にというご遺命にしたがって立てられた御墓。聖人の御墓は、祖師の御廟ですから祖廟、あるいはたんに御廟と呼び、これに架けられた塔を祖廟塔、御廟塔という。この塔中にこそ、聖人の御舎利を安んじた創建当初の五輪塔の御墓がましましているのであります。五輪塔に刻まれた「妙法蓮華経」の五字は、聖人の本弟子・日昭上人あるいは日向上人の筆であると伝えられています。隣に、御草庵跡があります。石造の玉垣に囲まれた正方形の地面こそ、聖人 9 ケ年ご生活の御草庵跡。聖人はここで、法華経の読誦と弟子・信徒教育のための法門の談義、さらには多くの曼荼羅本尊や、厖大な著述・消息の執筆などに明け暮れました。聖人滅後、時代とともに発展を遂げた身延山久遠寺は、室町時代、身延山第 11 世日朝上人の時、将来のさらなる発展をおもんぱかって、もはや狭隘となったここより現在地へ移転をしましたが、聖人ご生活の御草庵跡、霊山浄土感得の霊域、身延山久遠寺発祥の聖地なればこそ、格護と守衛が続けられているのである。

日蓮宗は、本尊 久遠実成本師釈迦牟尼佛、経典 妙法蓮華経（法華経）、題目 南無妙法蓮華経、教義 お釈迦様の説かれたお経の中の真髄は「法華経」・法華経の一切は「南無妙法蓮華経」のお題目に集約されるとし、この法華経とお題目を広げることによって、命のある一切の救済を目的とする。寺院数 5178 ヶ寺　（平成 18 年調）、総本山は山梨県の「身延山　久遠寺」。信者数 約 385 万人、寺院は，総本山・大本山・本山の称号を用いることができるとされ、総本山は日蓮の遺言に従い遺骨が埋葬された祖廟がある身延山久遠寺で、貫首を法主と称する。霊跡寺院は日蓮一代の重要な事跡、由緒寺院は宗門史上顕著な沿革のある寺院で、住職を貫首と称する等、日蓮宗では、法華経二十八品の内特に方便品第二、如来寿量品第十六、如来神力品第二十一をまとめて日蓮宗三品経と呼び大切にされている。詳しくは別途お調べください。

久能山東照宮

御祭神である徳川家康公はご幼少のころよりあらゆる艱難辛苦を跳ね除け征夷大将軍に就かれた。晩年を駿府(現在の静岡市)で過ごされた家康公は、元和 2 年(1616 年)4 月 17 日に 75 年の生涯を大成された。今から 400 年前ですね。亡くなる直前、家康公は家臣たちに「遺骸は久能山に埋葬すること」を遺命として託され、葬儀は増上寺、三河の大樹寺に位牌を、一周忌後に日光に小堂をと遺訓。久能山建立は、二代将軍徳川秀忠公は直ちにそれを実行し、久能山に家康公を祀る神社を造営することを発令しました。これが久能山東照宮の始まりです。

大工棟梁には中井正清が選ばれ同年5 月に着工、1 年 7 ヶ月の期間で社殿が建てられました。当時最高の建築技術・芸術が結集された「権現造」の様式は、日光東照宮を始めとする全国の東照宮建築のひな形とされる。棟梁中井正清は、その生涯で名古屋城（国指定特別史跡）・仁和寺(重要文化財)・二条城(国宝、世界文化遺産)など現在にも残る重要な建造物を手がけましたが、久能山東照宮は晩年の傑作であるという評価から、平成 22 年に国宝に指定される。　久能山には、家康公の国づくりの想いやメッセージが隠されているという。「拝殿の正面上部（蟇股－かえるまた）に3 つの彫刻があります。中央の『司馬温公の瓶割り』は、司馬温公が水瓶の中に落ちた友を助けるために大切な水瓶を割ったという逸話が題材で、『生命の尊さ』が込められています。家康公の最も大切なメッセージといえますね。国民一人ひとりの命を大切にして平和な国を築くという、家康公の考えを表しています」。司馬温公は中国の北宗の人で、日本で言うと平安時代中頃の人。子供の頃、友達と一緒に遊んでいたら、水の入った大きな瓶に友達が落ちてしまい、早く助けようと、即座に近くにあった石で瓶を割って、友達を助けました。正直に、父親に「大事な瓶を割りました」と言ってお詫びすると、「瓶はいくら高くてもお金を出せば買えるけど、人の命は二度とお金では買えないからそれでいいのだ」と。人の命の尊さを教えた話。日光東照宮の陽明門にも同じ彫刻があり、久能山東照宮では拝殿の中心にあることから、人の命の尊さを強調し伝えようとしていたようでと久能山東照宮宮司の落合偉洲さんが語っておられます（家康公四百旅より）。右側の「三賢人と瓢箪の水」は、神仙郷（古代中国において発達した神仙思想によって創生された観念上の世界、不老長寿の理想郷）の水の入った瓢箪を前に、それぞれが感想を述べています。孔子(右)は何の味もないと言い、仏陀（中）は苦い（塩辛い）と顔をしかめ、老子(左)は酒のように甘くて美味しいと喜んだ。老子の言葉に 2 人はもう一度、水を飲んでみたいと頼んでいる様子です。しかし、瓢箪(神泉)の水は二度飲むことはできません。「三賢人であっても人生は二度無い」のと言う教育の大切さを重んじた考えを。左側の「瓢箪から駒」は、金色の瓢箪を持った

男の向こうに白馬が駆け抜けていく様子が彫刻されています。「瓢箪から駒がでる」あるはずのないことが起こる。「意外なものから意外なものが出る」ことです。転じて「人生何が起こるか分からない」という意味です。

季節的に「なすび」の鉢植えがありました。

「神君駿城に御坐ありし時」の話として伝わるのは、徳川家康である神君が駿府城に居る時、初ナスがあまりに高かったため、その値段の高さを「まず一に高きは富士なり、その次は足高山（愛鷹山）なり、其次は初茄子」と言い表したという（東京堂刊「故事ことわざ辞典」より）。諸説あるようです。お調べください。

静岡浅間神社

静岡浅間神社は、静岡市葵区にある神社。通称「おせんげんさま」。神部神社・浅間神社・大歳御祖神社の三社からなり、「静岡浅間神社」は総称。三社はいずれも独立の神社として祭祀が行われている。式内社二社（神部神社・大歳御祖神社）、駿河国総社（神部神社）。三社合わせて旧社格は国幣小社で、現在は神社本庁の別表神社。三社は鎮座以来独立の神社として扱われ、江戸時代まではそれぞれ別の社家が奉仕してきた。明治 21 年、三社別々に国幣小社に昇格した。戦後は神社本庁の別表神社となった。現在は一つの法人格となっている。

社殿は江戸時代後期を代表する漆塗極彩色が施された壮麗なもので、計 26 棟が国の重要文化財に指定されている。この社殿群は文化元年(1804)より 60 年の歳月と約 10 万両の巨費を投じて建造されたもので、信州諏訪の立川和四郎ほか門弟により彫刻された花鳥霊獣類は繊細を極めている。特に、重層な大拝殿はは神部浅間両神社の拝殿で、文化 2 年起工、同 11 年竣工。楼閣造りで、いわゆる浅間造の代表的なもの。高さ 25m あり、殿内は 132 畳敷きの広さがある。天井は十間の合天井となり、その各間に狩野栄信・狩野寛信の「八方睨みの龍」「迦陵頻伽」「天人」の天井絵を飾る。木造神社建築としては、出雲大社本殿(約 24 メートル)より高く、まさに日本一の威容を誇る。楼門は、神部神社・浅間神社の楼門で、文化 12 年起工、同 13 年竣工。総漆塗で、彫物には「水呑の龍」「虎の子渡し」などがある。また、二層部分に「當國總社・冨士新宮」の扁額が揚げられている。

梅雨の最中でありましたが、運よく富士山も遥拝することもでき、白糸の滝も見学することができました。遅くなることもなく明るいうちに帰宅することができました。有難うございました。